# 令和８年度　文京区立金富小学校　授業改善推進プラン

## 第６学年

| 教科 | 指導上の成果と課題の分析 | 授業改善の具体的な方策 |
|---|---|---|
| 国語 | 【知識・技能】<br>１学期の達成率は 82%であった。毎日の授業や家庭学習での音読の積み重ねにより、漢字の読みの正答率は高い一方、書き取りは低い傾向が見られた。また、熟語の構成や主語と述語の対応など、言葉の活用力でも誤答や無回答が多かった。特に語彙の活用では、日常的に新出語彙を使う機会が限られ、定着率の低さにつながっていた。 | 特に誤答の多い漢字や語彙について、授業やレベルアップタイム時に定期的に出題して反復的に取り組み、定着を図っていく。また、児童がノートを書き取る時に、当該漢字や語彙が出た際や、作文時の平仮名や誤字、語彙の誤った活用があった際には、正しい活用方法を個別で指導していく。全体指導でも、語彙を活用した例文を多く示し、文章上でどのように表現できるか多面的に捉えられるようにする。学習成果について即時評価し、意欲を高めていく。 |
| 社会 | 【思考・判断・表現】<br>１学期の達成率は 81%であった。国や社会の仕組みを児童にとって身近なものとして捉えられるよう、日常生活に置き換えた場面を設定したり、ロールプレイを通して国会・内閣・裁判所の役割を体験的に学んだりする活動を取り入れたことで、自分事として考え、主体的に学習へ取り組む姿が見られた。一方、考えを交流する場面では、発言する児童が固定化し、考えをもっていても発言に至らない児童も見られた。 | 児童一人一人が自分の考えをもって対話活動に参加できるよう、個人思考の時間を十分に確保するとともに、思考ツールやＩＣＴ機器を活用して考えを可視化する。また、ペア・グループ・全体交流を目的に応じて組み合わせ、発言しやすい場を意図的に設定することで、多様な考えに触れながら学びを深められる授業づくりを進めていく。 |
| 算数 | 【思考・判断・表現】<br>１学期の達成率は 63.6%であった。特に分数の乗除計算について計算の方法は理解できているが、分数をかけたり分数で割ったりすることの意味の理解が不十分で演算の決定を苦手とする児童が多い。 また、前学年で学習した割合の考え方を用いて比を表すなど既習の内容を活用することが苦手な児童もいる。 | ・問題解決や自分の考えを表現する場面において、図や式や、文章で説明する手段を複数提示し、既習事項を活用して考えを表現し合う場を設定する。<br>・AI ドリルを活用して、分数の計算の習熟を図ったり、文章題では、数直線を活用して立式の根拠を説明する場を設けたりする。 |
| 理科 | 【知識・技能】<br>１学期の達成率は 58.0%であった。「物の燃え方と空気」についての理解は概ねできていた。「動物のからだのはたらき」では消化管・呼吸・血液のそれぞれの理解はできていたが、それらを総合的にとらえることについては課題があった。 | 単元の終わりにプリントなどを使って総合的にふりかえりを行う。「人間のからだのはたらき」であれば各臓器（消化系と呼吸系）の位置、名称、はたらきを確認する。その後食べ物やつくられた養分、酸素・二酸化炭素や血液の通り道を確認できるようにする。 |

| | | |
|---|---|---|
| **音楽** | 【知識・技能】<br>鑑賞領域において楽曲を聴いてどのようなことを感じたのか等、豊かに楽曲を聴くことができる児童が多い。しかし、音楽のどの要素からそう感じたのか、根拠をもって言葉で表現することに課題がある。そのために、音楽の知識を習得し、それを生かして表現することが必要である。 | ・ICT 機器を活用し、楽譜や図形楽譜等を視覚的に提示することで、音楽の要素を捉えられるようにする。<br>・楽曲に動きを付け、児童が音楽を聴いて無意識に感じていることを具体的に言語表現したり、音楽の要素に気付いたりする活動を取り入れることで、知識を習得できるようにする。 |
| **図画工作** | 【思考力・判断力・表現力】<br>・道具や用具などこれまでの経験をいかして表すことができる児童が多いが、課題を自分なりに理解したり、自分なりのイメージをもって自分の表現を深めたりする力が弱い児童がいる。<br>・他者の作品に関心をもち、よさを感じ取ったり、伝え合ったりすることができていない児童がいる。 | ・それぞれが表したいイメージを表すために、さまざまな表し方や材料と出会わせ、選んだり決定したりする場面を多く設定して、自分の表現ができるようにしていく。<br>・友達や美術作品等の鑑賞の場面を多く設定していく。伝え方も、活動に合わせて付箋や ICT などいろいろな伝え方で行うようにしていく。 |
| **家庭** | 【思考・判断・表現】<br>家族・家庭生活、食生活、住生活では基本的な知識・技能を身に付けている児童が多い。しかし題材に対して自らの生活を関連付けて問題を見出し、課題を設定することを苦手とする児童が多い。 | ・題材を児童の実生活と関連付け、内容を自分事として捉えられる授業づくりをしていく。<br>・授業のまとめでは、「授業内容を実生活にどう生かすか」という視点で振り返りを行う。 |
| **体育** | 【知識・技能】<br>一人一台端末を活用して動きを確認し、助言し合う活動を取り入れたことで、技能の向上が見られた。保健では、生活と関連付けて考え、健康への関心を高めることができた。一方、自分の課題を客観的に捉え、改善につなげることが難しい児童も見られた。 | 一人一台端末を活用して動きを撮影・確認する活動を継続し、運動のポイントや課題を視覚的に捉えられるようにする。また、学習カードやふり返りで改善点を明確にし、助言し合う活動を充実させることで、自ら課題を解決し、技能を向上させる児童を育成していく。 |